

安全研究審議会
第5回会合議事録（案）

・日時：平成20年8月27日（水）13：30～17：00

・場所：システム計算科学センター 大会議室

（東京都台東区東上野6-9-3 住友不動産上野ビル8号館7階）

・出席者

委員：佐藤委員長（原安協）、松本委員長代理（原子力安全基盤機構）、小林（大阪大学）、新田（原電）、班目（東京大学）、三島（京都大学）、山下（原子力安全基盤機構）（順不同、敬称略）

オブザーバー：原子力安全委員会事務局、原子力安全基盤機構

原子力機構：石島センター長、平野副センター長、鈴木副センター長、村松研究計画調整室長、その他

・議事

1. 委員の交代について
2. 前回議事録の確認
3. 今後の研究評価の予定について
4. 平成19年度安全研究審議会評価報告書の作成について
5. 安全研究の将来展望について
6. その他

・配付資料

資料 No. 安研審 5-1	安全研究審議会委員名簿
資料 No. 安研審 5-2	安全研究審議会第4回会合議事録（案）
資料 No. 安研審 5-3	今後の研究評価の予定
資料 No. 安研審 5-4	平成19年度安全研究審議会評価報告書の作成について
資料 No. 安研審 5-5	重点安全研究の評価の実施要領（一部改訂案）
資料 No. 安研審 5-6-1	安全研究センターの将来展望 ―今後の5～10年を俯瞰して―
資料 No. 安研審 5-6-2	〃 ―原子炉施設安全研究―
資料 No. 安研審 5-6-3	〃 ―核燃料サイクル施設安全研究―
資料 No. 安研審 5-6-4	〃 ―放射性廃棄物処分・廃止措置安全研究―

<参考資料>

資料 No. 安研審参 5-1 第4回安全研究審議会速記録

議事

1. 委員の交代の紹介と石島センター長挨拶

村松研究計画調整室長より、安研審 5-1 に基づき、委員の交代（久木田委員の退任、三島委員の就任）について紹介の後、新任の三島委員より挨拶があり、更に、石島センター長より挨拶があった。

2. 前回議事録の確認

村松研究計画調整室長より、安研審 5-2 に基づき、前回議事録の確認を行った。

3. 今後の研究評価の予定について

平野副センター長より、安研審 5-3 に基づき、安全研究審議会における今後の研究評価の予定について説明があり、以下のような質疑応答がなされた。

- ・ 重点安全研究計画という大きな枠組の下で、多くが受託事業で研究を実施している現状では、長期的とか独創的とかいった視点は入りにくいのではないかと？
－ 受託事業以外に、運営費交付金で実施している研究もあり、出来るだけ長期的な観点から独創的な研究を実施するよう努力している。本審議会では、大局的な観点からコメントして欲しい。
- ・ 大綱的指針に基づけば、事前評価、中間評価、事後評価が重要なのはわかるが、もっと重要なのは、それらの評価結果がどう活かされるかである。
－ 本審議会で出された意見については、次の議題である将来展望の中にも盛り込んでおり、これからも適切に反映していきたい。
- ・ 受託事業でやっている研究は、既設の施設を対象としたものが多いと考えられるが、高い目標のもと新規プラントの開発に取り組めば、材料開発のように、その成果が既設の施設に適用可能なものが生まれることにも留意して欲しい。

4. 平成 19 年度安全研究審議会評価報告書の作成について

村松研究計画調整室長より、安研審 5-4 に基づき、安全研究審議会の平成 19 年度報告書の作成について説明があり、以下のような質疑応答が行われた。

- ・ 日本語として十分こなれていない部分があるので、見直して欲しい。
- ・ 安全研究は受託研究として実施するのは本来なじまないとか、統合によって JAEA という組織ができ事業者の面を有するから中立性に配慮とかといった、安全研究センターのみでは対処できないような、国の政策への直言は安全研究審議会の報告書に盛り込んでも良いのか？
－ この報告書は、理事長に提出するものなのでかまわない。

5. 安全研究の将来展望について

5.1 安全研究センターの将来展望－今後の5～10年を俯瞰して－

石島センター長より、安研審 5-6-1 に基づき、安全研究センターの将来展望－今後の5～10年を俯瞰して－について説明があり、以下のような質疑応答がなされた。

- ・ 原子力安全を確保する上で必要なことを全体的に見て、ロードマップも参考としながら、JAEA で取り組むこと、他の機関と連携して取り組むこと、他の機関に期待していること等、適切な分担案を示して欲しい。
- ・ 施設基盤の維持については、研究の推進、人材育成や技術の継承の観点だけでなく、事故の原因調査への貢献の可能性もあり、十分留意して欲しい。
- ・ 安全規制のあり方や適用法について法制研究会で議論しているが、リスク情報の活用の実現に向けて、JAEA からも参加して欲しい。
- ・ 今後の課題にある地震 PSA については、地震時の施設の安全を全体で見られる手法としては良いと思うが、結果の活用についてコンセンサスにつながるようにして欲しい。
- ・ 人材不足は、原子力分野に限った話ではないが、大学において深刻であり、人材の枯渇問題とならないか懸念している。
- ・ 規制ニーズに応える安全研究において、将来の規制ニーズを予見した研究展望を持って欲しい。

5.2 安全研究センターの将来展望－原子炉施設安全研究－

更田ユニット長より、安研審 5-6-2 に基づき、安全研究センターの将来展望－原子炉施設安全研究－について説明があり、以下のような質疑応答がなされた。

- ・ 熱水力研究で、出力増強の許認可に必要な各種の相関式や評価式を外挿して使えるか評価するためのデータはあるのか？
－ ロードマップにおいてニーズが明確になれば、役割分担にも配慮して必要なデータを取得していきたい。

5.3 安全研究センターの将来展望－核燃料サイクル施設安全研究－

内山ユニット長より、安研審 5-6-3 に基づき、安全研究センターの将来展望－核燃料サイクル施設安全研究－について説明があり、以下のような質疑応答がなされた。

- ・ 核燃料サイクル施設は化学施設としての特徴があることを踏まえ、放射性物質以外の要素も考慮して欲しい。
- ・ 核燃料サイクル施設へのリスク情報の活用では、公衆だけでなく従事者も考慮し、性能目標の検討とか、運転管理における意思決定に使えるようにしていきたい。

5.4 安全研究センターの将来展望－放射性廃棄物処分・廃止措置安全研究－

中山 GL より、安研審 5-6-4 に基づき、安全研究センターの将来展望－放射性廃棄物処分・廃止措置安全研究－について説明があり、以下のような質疑応答がなされた。

- ・ 放射性廃棄物の問題は、時間の幅が圧倒的に長く、これまでのような伝統的な科学技術的実証といった方法論が取れないと考えられる。
 - － ご指摘の通り時間的な実証が出来ない。現在我々が出来ることは、将来の安全性の評価に信頼を得るために最大限の科学技術的知識を提供すること。と考えている。